

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.17

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

三陸復興推進機構釜石サテライトの開所式を行いました。

5月11日、本年4月に新設された岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライトの開所式を行いました。

釜石サテライトは東日本大震災から約半年後の平成23年10月に岩手大学と相互友好協定を締結している釜石市の協力を得て、釜石市教育センター内に開所しました。以来、コーディネーターや特任准教授等が常駐し、被災地のニーズを大学の研究者につなぐコーディネート業務や、被災者を対象とした「こころのケア」のサポート業務などを行ってきました。

釜石市平田（へいた）地区に昨年6月から建設していた新釜石サテライトは、今年2月に完成。サテライトスタッフの引越し作業を経て、4月から業務を開始し、5月11日の開所式を迎えました。

開所式では、藤井克己学長の「地域に根ざした大学として、開所した釜石サテライトの施設を拠点として、復興活動を加速させていく」との挨拶について、清水孝悦文部科学省文教施設企画部長（代読：山下治計画課長）、達増拓也岩手県知事（代読：上野善晴副知事）、野田武則岩手県沿岸市町村復興期成同盟会長（釜石市長）からそれぞれ祝辞をいただきました。

式典後に行われた釜石サテライト設置記念講演会では、愛媛大学社会連携推進機構／南予水産研究センター長の山内皓平教授から「東日本大震災の創造的復興に向けて 岩手大学三陸水産研究センターに期待する」と題してご講演いただきました。



講演する山内皓平愛媛大学社会連携推進機構／南予水産研究センター長

祝賀会は、同日、近隣で再開した「公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター」と合同で開催。開所式と祝賀会には約150名が参加し、三陸復興へ向けた本学の取り組みに対する期待の大きさが感じられました。



1 式辞を述べる藤井克己学長
2 清水孝悦 文部科学省文教施設企画部長の挨拶を代読する山下治計画課長
3 達増拓也岩手県知事の挨拶を代読する上野善晴副知事
4 挨拶する野田武則岩手県沿岸市町村復興期成同盟会長（釜石市長）



その後、藤井学長、祝辞者、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会等の来賓の皆様と一緒にテープカットを行いました。



祝賀会では釜石平田地区に伝わっている釜石虎舞も披露されました。

新釜石サテライトには、臨床心理士の資格を有する特任准教授が常駐するこころの相談ルームのほか、岩手大学初の水産系研究施設となる三陸水産研究センターを設置。三陸水産研究センターには、特任教授、特任研究員が常駐し、魚介類の新しい増養殖法の研究などに取り組む「水産・養殖部門」、「水圏環境部門」、「新素材・加工技術部門」、「マーケティング戦略部門」の全4部門体制で一連の研究開発を通じた水産海洋分野に係る実用化研究拠点の形成を目指していきます。

三陸復興推進機構 釜石サテライト新建築物概要

構造：鉄筋コンクリート造 地上2階

建築面積等：建築面積 1,090㎡、延べ床面積 1,937㎡

諸室の構成：1階 ホール・ラウンジ、会議室、事務室、給湯室、セミナー室、水産加工実験室、機械室、倉庫、トイレ、風除室、水槽実験室
2階 研究室1-4、共用研究室、資料室、レンタルラボ1-2、化学実験室、機器分析室、トイレ、シャワー室、電気室、給湯室

安全安心への対応：

●空調屋外機を全て屋上へ集約することにより、津波等による被害を最小限に留めるとともに、地上からの建物景観にも配慮しました。

- 緊急地震速報機器と連動した館内放送設備を設置し、利用者への緊急時連絡体制を整備しました。
- 太陽光発電設備（50kW）を屋上に設置し、非常時の電力供給を可能としました。



三陸復興推進機構 釜石サテライト・三陸水産研究センター 住所・連絡先等

〒026-0001 岩手県釜石市平田第3地割75-1
電話：(0193) 55-5691 (代表) FAX：(0193) 36-1610
E-mail: kamaishi@iwate-u.ac.jp
Web: <http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/>
Blog: <http://sanriku.adm.iwate-u.ac.jp/blog/>

アクセス 車の場合：釜石駅から約15分
バスの場合：岩手県交通「上平田」バス停から徒歩約15分

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、4月に設置された三陸水産研究センター内に研究室を構え、遺伝子分析によるサケ類の増養殖等の研究に取り組む水産・養殖班についてご紹介します。

水産業復興に向けた 研究・教育の拠点形成を目指して

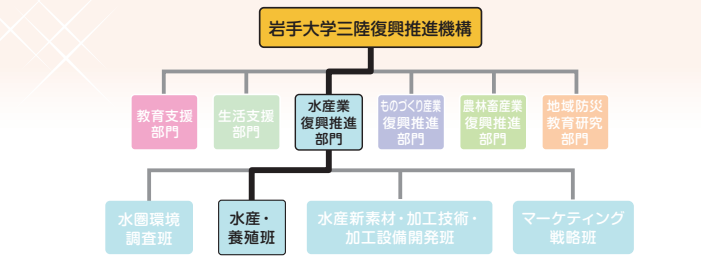
岩手大学三陸復興推進機構・三陸水産研究センター
阿部 周一 (特任教授・副センター長)

沖合に世界3大漁場の一つをひかえ、豊かな海の幸を享受してきた三陸沿岸の水産業は、震災により甚大な人的・物的被害を受けました。漁船、漁港、養殖施設等の被災に加えて、後継者不足で就業年齢が高かった漁業者の廃業が相次ぎ、地域の社会や経済に深刻な打撃を与えています。水産業復興推進部門では、文部科学省の支援による「SANRIKU (三陸) 水産研究教育拠点形成事業」を通して三陸の水産業復興を進めています。この事業の一環として4月に開所した「三陸水産研究センター」は、水産増養殖技術や加工技術等の研究開発、水産業の6次産業化の支援等による産業育成、高大連携を含む学部・大学院教育や社会人教育等による漁業後継者・水産経営の人材育成、これら3つを柱に岩手大学における水産研究・教育活動の中核施設として地域に貢献することを目指しています。

本センターを主な活動の場とする水産・養殖班では、増養殖技術の研究開発として、水



サケの授精 (津軽石川)



産重要種であるサケ類の育種および増養殖のためのシロザケ・サクラマス等の遺伝特性の把握、天然ボヤの人工採苗試験 (本レターのvol.15にも掲載)、アカモク資源量調査と養殖試験、そしてマガキ春出荷の有効性調査等を現在進めています。本センター1階には海水・淡水を用いる水槽実験室が整備されており、取水設備が完工した暁には魚介類の本格的な飼育実験等が可能になります。このため、進行中の上記試験研究のほか、今後は水槽実験に基づくサケ類など冷水性魚介類の高・低温耐性に係わる分子機構の究明、閉鎖循環型陸上養殖システムの開発、魚介藻類の種苗生産技術の開発と応用等を学外の研究教育機関とも連携して進めて行く予定です。



センター内の研究室風景 (センター2階化学実験室)



カキのサンプル採取 (宮古湾)

水産のバックグラウンドがなかった岩手大学初の水産研究施設として県内外の各方面から注目されている本センターを、皆さまの温かいご支援とご協力により水産研究教育の拠点として未永く盛り立てて頂ければ幸いです。

大船渡エクステンションセンターだより

4月3日より大船渡エクステンションセンターが開所し、大船渡市にも岩手大学の復興支援の拠点が立ち上がりました。今回はその大船渡エクステンションセンターから大船渡市の紹介をしたいと思います。

●大船渡市について

大船渡市は宮城県との県境である陸前高田市の北に位置し、岩手県沿岸では宮古市に次いで2番目の人口約39,000人を有する市です。気候も比較のおだやかで、雪もあまり多くないためとても過ごしやすいです。漁業が盛んな街で、24年度のさんまの水揚げ量は全国2位、他にもさけ・ます、いか等多くの魚介類が水揚げされます。

また、観光にも力を入れており、碓石海岸や穴通磯などの観光スポットも存在します。市の花につばきを制定しており、世界のつばき館やつばきまつり、大船渡をPRするつばき娘など市内のいたるところにつばきがあふれています。最近ではつばきの花とさんまをモチーフにしたゆるキャラの「おおふなトン」も誕生し、震災のダメージが残る大船渡を盛り上げてくれています。



つばきまつりの様子

●大船渡エクステンションセンターについて

大船渡エクステンションセンターは4月3日、大船渡市役所商工港湾部に設置されました。他のエクステンションセンターと同じく、大学のシーズの還元や地域ニーズの収集、マッチングを業務としています。また、大船渡市では、大船渡駅周辺地区の新たなまちづくりに関する「大船渡駅周辺整備室」、新規事業を掘り起し、事業化を促すことで地域産業の振興と雇用の促進を図るため「大船渡市起業支援室」を新設し、復興に向けた組織体系の強化を図っています。今後連携を図りながら、岩手大学として大船渡市復興の後押しをしていきたいと思ひます。



地域の皆様にご活用していただけるよう積極的に活動していきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願い致します。

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

●連絡先 大船渡エクステンションセンター

〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢15

大船渡市商工港湾部内

TEL:080-5745-9775 E-mail:ofunato@iwate-u.ac.jp

Information

釜石サテライト こころの相談ルーム ~無料心理相談のお知らせ~

4月1日、岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト内にこころの相談ルームが設置されました。こころの相談ルームでは東日本大震災で被災された方を対象に、臨床心理士による無料心理相談を行います。「怖い夢を見る」、「新しい学校や職場に馴染めない」、「子供や両親のことが心配」など、震災に関わるさまざまな心理的問題についてのご相談をお受けいたします。どうぞお気軽にご相談下さい。

相談日: 月・水曜日 10:00~16:00 (完全予約制)
料 金: 無 料
場 所: 岩手大学三陸復興推進機構 釜石サテライト こころの相談ルーム (岩手県釜石市平田第3地割75-1)

ご予約・お問い合わせ先

岩手大学人文社会科学部 こころの相談センター

電 話: 019-621-6848

電話受付時間 月~金曜日 10:30~12:30 (祝祭日およびお盆・年末年始期間を除く)

※釜石サテライトの他、上田キャンパス (盛岡市) でも心理相談を行っています。

ご予約の際にはご希望の場所もお伝え下さい。

こころの相談ルームについては下記URLをご参照ください。

<http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/kokoro.html>

編集後記

5月23日、盛岡市で開催された全国経済同友会セミナーに先立ち、ジョン・V・ルース駐日米国大使が岩手大学に来学し、「起業力、女性の社会進出、若者のグローバル化」をテーマに、学生11名と意見交換しました。

ルース大使は、「リスクを恐れずに経験を積んで欲しい」と、若者が夢を追うことの大切さを説き、参加した学生は、「夢に向かって今日からまた挑戦を続けて行きたい」と、意欲を新たにされた様子でした。